THE Y.W.C.A. MONTHLY

女子青年界

一月號

要目

日本基督教女子青年會發行

婦人之友社の三大雑誌

「婦人之友」

毎月一回一日發行

一冊金四十錢　郵税一錢五厘

主幹　羽仁もと子

「まなびの友」

毎月一回一日發行

一冊金廿五錢　郵税一錢

主幹　羽仁もと子

「子供之友」

毎月一回一日發行

一冊金廿五錢　郵税五厘

主幹　羽仁もと子

東京雑司ヶ谷　婦人之友社

電話番町三六九八
振替東京一一六〇〇

第十八卷第一號　　大正十年一月號

女子青年界目次


百萬圓でも
君の强健な其の胃の腑を百萬圓出すから僕に賣つて呉れ給へ……と言はれた處で是ればかりは出來ない相談。けれども茲に良法あり、金廿錢を投じてホシ胃腸藥を求め常に服用試みられよ。如何なる胃腸の患ひ直に治つて百萬圓でも買へない强健な胃腸に忽ちなれる
▲定價 金五十錢一圓 試用金廿錢▼
胃病良藥
ホシ胃腸藥
東京京橋南傳馬町
星製藥株式會社

祝クリスマス

謹賀新年

日本基督教女子青年會本部

神田區錦町一丁目十六番地

電話神田三六五二

委員一同

職員一同

横濱基督教女子青年會

横濱市本町六丁目八十四番地

祝クリスマス

謹賀新年

役員

會長　室原富子

副會長　ペイン

同　メンデルソン

會計　野村美智子

書記　渡邊文子

職員

ペリー

横澤つぎ

上野とし

日比忠

アレン

安田曾代

ジョーダン

長谷川よし

祝クリスマス
謹賀新年

山田千代子

横濱市神奈川青木町三一三一
捜眞女學校
電話本局二一七六

祝クリスマス
謹賀新年

東京基督教女子青年會
神田區北神保町十四番地
電話九段一六八

委員
職員一同

祝クリスマス
謹賀新年

大阪基督教女子青年會
大阪北區天滿橋一丁目九十九

會長　淺井泰子
幹事　ミス、ハード
同　土尾しげ子
他委員職員一同

祝クリスマス併せて新年を賀し奉る

京都女子青年會
京都室町武者小路下ル

會長　海老名みや子
他委員一同
幹事　ミス、ボードサル
同　ミス、ベスト
同　林アキ子

女子青年界

第十八巻

第一號

エホバの救拯(すくひ)をのぞみて靜にこれを待つはよし。
人わかき時に軛(くびき)を負ふはよし、エホバこれを負はせたまふなれば獨り座して默すべし。
われら天にいます神にむかひて手と共に心をもあぐべし。

――エレミア哀歌 第三章――

團結と同胞愛

森田松榮

合同とか、同盟とか、キリスト教徒の團結の必要が諸所に叫ばれてゐる。これには一派内の團結もあれば、各派を通じてのもあり、更に大きい所ではローマ天主教、希臘正教、新教各派合同の爲に盡してゐるものもある。世界各派のキリスト教徒は今、等しく、團結の必要を感じて居る。團結の必要を生じた原因は、種々あらうが、重なのは、分れ爭ふことがイエス・キリストの精神に悖ることと、イエスを愛するほど、信ずるほど強くなつてくる熱烈な同胞愛の欲求からくる内的のものと、日に盛になつていく唯物主義に拮抗する爲、殊には道德とか祖先崇拜とかの假面假裝の下に權力者の後楯や、國民義務教育の鎖やで、幼い兒童や年少の學生の胸にも頭にも彫り付け刻み込まれやうとしてゐる偶像教、汎神主義に對して戰ふ爲、孤立の不利と團結の必要とが痛切に感じられてきた外的のものとである。

女壯士のやうに云はれたパンカースト夫人の婦人參政權運動が戰時中止の姿になつた時、世人は同夫人の「反省」を賞揚したが、戰後の同運動は戰前の幾倍の大きさ擴さになつた。戰時中愛蘭が擧國一致のお仲間入をしさうなので、イギリスが內亂の機過たりとして喜ぶ間もなく愛蘭の獨立運動は益々激烈さを增す斗りである。外的の必要に迫られての共同行爲や擧國一致は、一時如何に堅實有效に見えても所詮永續は難かしい。キリスト教徒の合同は、勿論前二者の如く性質利害相反するものの共同とは大に

異なってはゐるけれど、それ丈に猶更純粋な内的の動機によらなければ眞の團結は決して出來ない。あくまで精神的にといつて洗禮聖餐を初め一切の形式を排する友會徒もあれば、バプチズムは浸禮だといつて、他教會で既に洗禮濟の者を更めて水に浸けなほす浸禮主義者もある。先般英國で開かれたラムベス會議には英國聖公會に屬する大監督、監督が世界の諸地方から列席した。その會議で、教會一致の精神を發揮する爲に決議したところを見ると、驚くべし、聖公會以外の牧師は、聖公會の聖職からあらためて、按手を受けた後始めて一般に聖餐を掌どる權を生ずといつて居る。假りに、キリストがもう一度人間の姿でいらつしやつて議長席にお着きになるとする。そして各派の代表者がずらりと居流れるとする。さて其席上で、彼等の一人でも、自分の派こそ眞理の專有者、自分の主張こそ純福音的なりといはん斗りの態度で、喋々し得やうか？　水を濺らしたのじや駄目だ。ざんぶり浸けなければいけない、誰か誰の頭に手を按いたのでなければ有効でないなどと半句でも云へやうか。

これに對して、そんな輕卒な云ひ方をするものではない。この派の歴史はかうだ。この教會の神學はかうだ。かの教會の傳説はかうだ。まづそれを研究してから物を云へ、といはれる向もあるかも知れない。然しイエスはさうは仰つしやらなかつた。罪の悔改めと、神への歸依、神を父とし人類を兄弟とし愛し奉仕すること。かく福音は單純である。キリストは「我に來れ」「我に從へ」と仰しやつた。唯それ丈である。死に面してゐたかの十字架上の盜賊を假りに今日の出來事にして見やう。勿論その隣にはイエスはいらつしやらないで、今日の傳道者がゐることにする。ところで、死期が幾瞬間かの後に迫つてゐる人に對して、傳道者が説く所は、彼がどの教派に屬するにもせよ、それはきつと同一な單純な福音であらうと私は信じる。何も盜賊には限らない、自分の近親、愛人、友人の場合に於ても同一であら

う。今や忽ちに、そして永劫に、この世を去らうとしてゐる魂（その所有者が誰にもせよ）に對する時の、嚴肅、眞面目、純眞な氣持ちに於て、誰かイエスの單純な福音のほかに、教を說き得る信者があり得やうぞ！。

そして私はいつもこの氣持が意識的にも無意識的にも、信者に共通の一貫したものでなければならないと思ふ。

キリスト信者になるのに、各派の神學や、傳統を比較研究し詮衡した上で、なつた者はあつた所で極めて少なからう。まづ委くが初めは單純な福音からはゐる。即ち直接「我に來れ」「我に從へ」の御聲をきいて行つたものと見ることが出來る。ところが、年を經るに從つて、「キリスト」信者だか、「〇〇教會」の信者だか分らないやうになるものがなか〱多い。常に唱へる「聖徒の交」なども信經の「聖徒」と、唱へる人達の心にある「聖徒」とは違ふやうなことになつて來る。

私達はどこ迄もイエスに從つて行けばいいのだ。然し、たゞイエスだけにである。そのほかの誰にでもない。教會に屬すも、使徒の教に從ふも、傳道者に從ふも、それは彼等が眞にイエスを宿してゐる場合にのみ。即ち私達は彼等に從ふのではなくて彼等を通してイエスに從ふのである。あくまでイエスに從ふのである。さうでなければ私達はキリスト信者とは云はれない。教會の分裂、教派の爭鬪、キリスト信徒と稱する人々が血で血を洗ふ「同胞」殺戮の戰爭は諸國の歷史に例がある。私達は今にして醒めてキリストに行き、キリストに從ひ、一つの葡萄樹に連らなるものとならなければ、「天に在す我等の父よ」の祈りは徒らに死語となるであらう。かの世界大戰の將に起らんとしてゐた時、世界の人心は戰爭防止を、愛の宗教と、世界同胞主義とを標榜する各國のキリスト教會に期待する事は甚だ少なかつた。然も開戰にあたつて、同胞殺戮の不可を說き非戰論を主張して、迫害されたキリスト者は極めて僅少に

過ぎなかつた。

キリスト信者がキリストに歸らなければならないといふことは、不思議なことである。否不思議以上に堪えがたい恥辱である。けれども私自身これに就て身を切るやうな痛悔を味つてゐる。私自身いつの間にかキリスト信者よりも、より多く敎會信者になつてゐた。イエスに從ふよりもより多く人や制度に從つてゐた。そして私は今、身を翻して、イエスに確かり握まつて、傍目も觸らずに從つていかなければ、神を父とすることも、人を同胞とすることも出來ず、愛の實行などはたゞの一人にすら爲し得ないことを、心の底から感じてゐる。そして信者の團結はすべて信者各自がキリストのみに從ふ時に初めて出來ると思つてゐる。そしてキリストのみに從ふ信者同志は團結せずには居られないことを信じて居る。

エドモンド・ハアヴエ氏は、キリスト敎の分派の團結に就て下の如く云つてゐる。

「この相接近することは、各分派の相違點を議論することによつてではなしに、共同の仕事と、共同の禮拜とによりて、同じ努力を分ち合ふことによりて同じ使命を傾聽することによりて、同じ路を行く相弟子として從ふ事によりて、實現されたのである」。

「今日、我々は敎理上ではどんなに異つた意見を有つてゐても、品性上キリスト敎の理想を實現し得ないやうなことがあれば、一分派のその失敗は、諸派全體の損害であると覺るやうになつて來た。一つの敎會が犧牲の高所にのぼる度に、或はその會員の生活の標準を高める度に、獲られる利益は、その一敎會以外にまで遠く廣く及ぶのである。

「聖徒は、聖といふ稱號を諭られてゐやうと、ゐまいと、同一の目的に向つて進まうと努力してゐる凡ての人の共進の分け前である。彼等の使命は、過去に於ると同樣、相異つてはゐるにせよ、彼等は全世界にとつて、不斷の一致團結の感化力である。

「既に各分派の間に生じてゐるところの、相互の協

力と理解とを作成する新精神が、更に充實した勢力を有つに至つたなら、我々は、國内及び國外で、我々を待つてゐるところの共通の働きに、新らしい熱誠を以て着手し、相携へてキリスト教の社會訓の新らしい適用を、實行する必要がありはしないだらうか。」

我々は初代教會に就てキリアム・ブラウンが云つてゐる左の言葉を讀むにつけても、信仰の先祖に對し、現在の我々の狀態を恥ぢずにゐられやうか。

「同胞主義が主な事であつた。どうでもさうでなければならなかつたのだ。そのわけは、キリスト教は同胞主義のための自覺せる世界運動であつて、神學的組織ではなかつたからだ。………ローマの專制政治の時代に於てすら、初代キリスト教が團結した所の積極的同胞愛は、どれほど現實で、どれほど包含的であつたらう。人種や階級のあらゆる差別はあと方もなく取り去られ、兄弟愛が支配してゐた」

教派と教派との國家的分立、黨派的の偏狹な固執これらから全く脫しなければならないと同時に、キリストによる一致團結の遂行にあたつてもう一つ私達が打破しなければならないものがある。それは所謂純福音的といふものと、所謂社會事業的として水と油のやうに兩者を取扱ふ氣持態度である。

兩者は二にして一、楯の兩面のごとく、高低なく輕重なく、車の兩輪、鳥の双翼、相對峙すべきものでなく、相合して初めて完全な基督者生活を爲すものである。それなのに、事實は、多くの所で別視されて居る。我々は左の文によつて、多くプラオンから教へられる。

「宗教は何であるよりも運動である。十字軍である。道德的、倫理的、精神的に一定した進軍である。宗教は生きてゐる。成長もする、擴がりもする、理想によつて鼓吹もされる、神聖な包含的な仕事もしなければならない。これがたしかにイエスにとりての宗教といふものであつたし、又その信徒にとつても幾分さうであつた。それは世界を抱擁する使命、世

界の生活を、同胞愛の基礎の上に團結させる使命の自覺であつた。イエスと其仲間とは、——諸氏は記錄（聖書）を讀めば、知らずにはゐられないことであるが——彼等の全生涯の委くの時と、委くの力と、委くの獻身とを要求した仕事を有つてゐたのである。彼等の仕事は新らしい社會制度の建設であつた。それを彼等は「地上の神の國」と稱んでゐた。これこそは、イエスの説敎と、彼が曾て一度もそこから他に外れたことのない目的との基調であつた。同じ目的が彼の弟子等の心から消え去つて了はないやうに彼は「御國を臨らせ給へ」といふ祈りを彼等に與へた。地上のその神の國は、ぼんやりしたものでも、神秘的なものでもない…………。

「黄金崇拜者がイエスの單純で革命的な敎——あらゆる歴史上のかの最も急進的革命的な運動の自然の合詞となつてゐた敎——から、少しでもこしらへ出すことの出來た唯一つの方法は、イエスの敎には無い丸つきりちがつた別の意味を讀み込むことによつてであつた。」

「イエスを告發した唯一の論據は、彼が宗敎といふものを、日曜や寺院や、蒲團のある聽衆席や、オーガンの繰返しとしてでなく、毎日の事、年中のこととし、同胞愛の宗敎を、元來同胞愛を人間社會の中心原則とする爲の團結力である宗敎を、彼自身の行爲に於て主張し明らかにしたといふことであつた。」

「イエスにとつては、神の國は、民衆の入り得るもの、與り得るものであつた。學者やパリサイが入らないでゐる間に、罪人や娼婦が入つて行くとイエスは云つた。社會の最下層の人達が着々彼の運動に參加していつた間に、敎會の指導者達はそれに離れてゐた。」

平和の主なるキリスト世に來り、父なる愛の神を我等に啓示し、愛の敎を説いて以來、既に千九百年、彼の言行、十字架、彼の一生を一貫してゐるものは正義と愛とである。このキリストを首として、キリストの敎を體得體現する使命ある敎會に對し、世は

どうして平和、正義、愛を期待することが寡ないのか？どうして無教會主義が叫ばれるのか？　我々は深く反省すべきである。我々は眞の平和と正義と愛との爲に、あらゆる苦しみに遇ひ十字架に死なれたキリストの血を空しくすることなく、あく迄同胞愛の實行に努めなければならないと思ふ。

「人もし『われ神を愛す』と言ひて、その兄弟を憎まば、これ僞者なり。既に見るところの兄弟を愛せぬものは、いまだ見ぬ神を愛すること能はず。神を愛するものは亦その兄弟をも愛すべし」（ヨハネ第一章）

「誠になんぢらに告ぐ、此等のいと少きものゝ一人に爲さゞりしは即ち我になさゞりしなり」（マタイ傳第二十五章）

「すべて分れ爭ふ國はほろび、分れ爭ふ町また家はたゝず」（マタイ傳第十二章）

最後に現時のキリスト教徒の團結にとつて大切なことは、あく迄、純粹であるべきことである。教會はその政治、その諸制度を、その大敵であり大迫害者であつたローマ帝國のそれ倣ふに至つて、初代キリスト教の潑溂たる精神を漸次失ふに至つた、と云はれてゐる。

ロマ教會に對して起つた改革者等にも、ルーテルの晩年に於るがごとく、悖德なる貴族との妥協の如き、殘念なる例がある事をあげて、「かくして改革者等の右翼は少しづゝ墮落して行つて、遂にその良心とプロテスタンチイズムの名の下に今日存在する國家との妥協となつて了つた」といつたクロポトキンの言葉は峻烈に過ぎるかも知れない。然し、キリストの精神と全然相容れない主義と妥協することは、一時表面的教勢の擴張を來らせるかは知らないが、それはキリストの精神ではない、イエスはそんな臨機應變主義者ではなかつた事は明らかである。そんな團結は正味八分間で燃え盡したといはれてゐる東京驛前の建前のやうにもろいものに違ひない。外はこの國に古くて根強い、そして益盛されやうと手段を極力盡されてゐる汎神教、偶神教にあたる爲にも、內は充實した世界的の愛の家族を形づくる爲にも、我等はあく迄純粹な團結をしなければならな

い。見よ、全國の勞働團體は、資本家との妥協を排して、勞資協調會の招待會に列席を斷はらうとしたとさへいはれてゐるではないか。ましてや、キリストの徒と公言し、この世に神の國を建設せん使命を有つ我等は、金力と權力との後援を獲るために、どうして、悖德漢と妥協してよいことぞ、ましてや無智の悖德漢と異なり、道德、濟民等を標榜しつゝ不義を働き居る僞善者との妥協をや。

　若き者は純粹である。生一本である、舊習慣や、傳統の力によりも、新らしい理想により多く牽きつけられる。左に遠慮し、右の眼色をうかゞふことなく自分の確信する所に向つて、勇氣を以て突進し得る。

「幸福なるかな、義のために責められたる者、天國はその人のものなり　我がために人、汝らを罵り、又責め、詐りて各樣の惡しきことをいふときは汝ら幸福なり。喜び喜べ、天にて汝らの報は大なり汝等より前にありし預言者等をも斯く責めたりき。（マタイ傳　第五章）

神の國は一人では成立しない。信者の團結からなる。されば若き姉妹よ、我等は私情私派の上に超越し、趣味の相違、性質の多樣を相認容し、眞の神を共通の神として仰ぐ神の子同胞として、キリストを共通の師として仰ぐ相弟子として、神國建設の共通の目的に向つて、手を携へて進まうではありませんか。

なんぢらはたゞ萬軍のエホバを
聖としてこれを畏みこれを恐るべし

——イザヤ書八章——

In friendship with Jesus these working men, fishermen, became beautiful and kind, so that men everywhere wanted to come to them, wanted to be their friends, to learn the secret of their lives.

Why didn't Jesus choose educated men, rich men to begin with? Later on the great men did come, but Jesus began his teaching with simple rough fishermen. Why did not he begin with great scholars?

Wasn't it because Jesus Christ wanted to live in their hearts, and in yours and mine? If Jesus Christ is in the heart, he will be in the thinking too, and in the body, too, and the whole person will become beautiful. Have you ever seen an ugly face which is really beautiful of the light in it? All that is rough and cruel will become beautiful and manly and womanly. And Christ can use the very power that was so rough, for a power of beautiful influence.

There was a woman who had sinned very much, and all the people wanted to kill her, but Jesus looked at her heart and saw that she really wanted to be good, and He became her friend. All that was ugly in her became beautiful, and she was a power for good.

What is in your heart and in mine? Is it roughness to anyone who seems to be hurting us, or is it kindness to even those who seem to be cruel? Are we making our lives beautiful by living with Jesus in our hearts? Do our faces shine because our hearts are beautiful?

For our family, for our friends, for those with whom we work, we want to be our best. How shall we do it?

Jesus says, "Come unto me, and learn of me, for my yoke is easy and my burden is light".

He will teach us how to be fishers of men, how to be really helpful to other lives. We cannot do this unless we are willing to follow, unless we will make our lives beautiful.

In a humble little stable,
Christ was born across the sea,
With a beauty in his bosom,
That *transfigures* you and me.

英 文 欄

The Beautiful Lie

Matthew 4:19. "Come unto me and I will make you fishers of men"

One mild afternoon in December when the sun was shining brightly, the thought came to me, "I will go out to the sea". So I put my books away and went off on a street car, and very soon I was out on a narrow strip of land that reached out into the water like a big finger. I walked out to the end of the finger, and sat on a rock where the waves splashed at my feet. I looked far out over the water, and could see fishing boats with their white sails. But I forgot the boats and just watched the waves come pounding in. Strength and power were in them, and I thought of how they could destroy great ships sometimes, and then at other times be so quiet and peaceful and beautiful: So much power and beauty were in the wonderful ocean!

The sun began to go down behind the hills and make the sky and the water a pale gold color. The water began to become more quiet. Then the fishing boats began to come home, pulling down the sails and working the long oars to steer the boats into the harbor. Many, many boats came in, some large and some small, but all of them with strong men in them who were coming home after a hard day's work. As some of them stopped the boats and washed the nets in the water, they sang rough songs and laughed loudly. The sea however was quiet, very beautiful with the sunset reflected in it, and it was hard to realize that it could be rough and cruel so that it could do much harm.

Then I thought of Jesus. He lived among men like these. He was gentle, and beautiful and loving always, and the men were rough and careless and rude, full of a power that could be cruel. And yet he loved them. One day when they were coming home from a day's fishing, he said to them, "Come with me and I will make you fishers of men". He wanted them.

年の始めに

——ピリピ書講解に代へて——

佐波亘

○

一九二一年！　とにかく春を迎へたのだ。陽氣はなほ嚴しい寒さではあるが、面目一新、こゝに新天新地を見る心地がする。「前のもの既に過ぎ去り」、私達の日記も白き第一頁にペンを落すことになつた。希くば私達の信仰生活も、新年と共にそこに一時期を劃したいものである。

○

私達の祖先で、徹底した救の信仰を握つて居た彼の親鸞は、それは勿論佛敎の立場からではあつたが斯ういふことを言つて居る。「某はまたく善も欲しからず、また惡も恐なし、善の欲しからざる故は彌陀の本願を信受するに勝れる善なきが故に、惡の恐なきといふは彌陀の本願をさまたぐる惡なきが故に…………」（口傳鈔）

○

パウロは、「されど曩に我が益たりし事はキリストのために損と思ふに至れり。然り、我はわが主キリスト・イエスを知ることの優れたるために、凡ての物を損なりと思ひ、彼のために既に凡ての物を損せしが、之を塵芥のごとく思ふ……」と言ひ、さらにまた「我等をキリストの愛より離れしむる者は誰ぞ、患難か、苦難か、迫害か、飢か、裸か、危險か劍か、……然れど凡てこれらの事の中にありても、我らを愛したまふ者に賴り、勝ち得て餘あり。われ確く信ず、死も生命も、御使も、權威ある者も、今

ある者も後あらん者も、力ある者も、高きも深きも此の他の造られたるものも、我らの主キリスト・イエスにある神の愛より、我らを離れしむるを得ざることを。」(ピリピ書三ノ七、八及ロマ書八ノ三五―)と言つて居る。

○

私達にも、今年、彼らのやうに徹底した信仰が欲しいものである。私達は、年頭先づ斯る願望と祈禱を以て始め、そして主若し許し給はば、私達の今年の日記の最後のページに、彼のジョン・ウエスレーが臨終にあたりて語つたやうなあの經驗を私達も經驗して、そこに書きしるし得るやうにしたいものである。"The best of all is, God is with us."

○

それに就て、今年、私が斯くありたいと願ふ二三のことどもを述れば、今年私はどうか毎日住み心地よく暮したいと思ふ。家庭にありても、家庭の外にありても、私は然かありたいと願ふ。

イエスが、敵地のやうなサマリヤといふ地方を通過された時、折からその地の然も性情のひねくれた人類を皆讐敵と思つて居るやうな、その心までことにすさみ果たる、一人の婦人に出會はれたことがある。場所は泉の傍であつて、イエスは旅路の疲で渇を感じられたものと見え、彼はその婦人に「われに飲ませよ」と言はれた。無論、婦人は彼の人格の偉大さに驚異の眼を向けたであらうが、すげなくも水一杯を拒絶した。イエスはと見れば、彼の眼中ただ、「神の賜」である清水あるのみで、他に餘念あるべくも見えなんだ。かくて會話は漸次に進んだ。

この時、彼は婦人の心を變へしめ、水のみかは、遂にその婦人をして、心のすべてをイエスに獻ぐるに至らしめたといふことである(ヨハネ傳四ノ三―)。

・　・　・　・

私達も今年、どうか斯ういふ生活――イエスのやうに――を遂げたいものである。省るに私達はとかく人の世のつまらぬ事情に遮ぎられ、或は妨げられて、いと小さきことにこだはり、肝心なものを取逃

してしまふ者である、私達は我と自ら天よりの恩賜を拒みながら、人の世を住み難いと喞つ愚者でありはすまいか。

○

それから、今年私はどういふ事情にぶつからふとも、いつもその境遇と戰つて常に勝利を得たいと願ふ。所詮、人生は不斷の戰である――信仰生活に於てはその事が一層切實である――から私は敢て戰を辭すまい。願ふところはただ勝利の快感を味はひたいのだ。

ある話に、ある人が、戰のはげしい生活――それは恰も秋のやうに淋しく、冬のやうに冷たい境遇と年が年中戰はねばならんだといふ。そしてその人は常に自己が境遇を喞ちながら、極樂世界を夢みて暮して居たといふ。然るところ忽然、その人は豫ての希望の如く、極樂世界へと移された。そしてそこには最早戰といふものがあらなんだ（天國は勿論かくの如きでないであらう）。そしてその人は桃源裡の夢あたゝかに幾日かをそこに過して、人生の最大幸福を感じたといふ。併しながらやがてその人の心に過去の生活が戀しくなり始めた。と言ふのはそこでは少しも勝利の生活の快感が得られないからであつた。かくて彼は大急ぎで再び極樂世界から逃げて歸つたといふのである。

私も今年徒らに人生の春を希ふまい。

○

イエスは十字架上「われ渴く」（ヨハネ傳十九ノ二十八）と仰せられた。或人、この言だになくば、彼は實に天上天下獨一無二の偉人と稱し得べきも、惜むべき哉、この一言あるによつて、吾人は彼を凡俗の常人と見ざるを得ずと言つた。然しながら私に取つては、決して然うでない。たとひ聖書の中からイエスの他の言は失せ去りても、或は殘らなんだにしても、幸にこの一言だにあるならば、私はイエスを救主と仰ぎ永遠の生命を有てる者と信ずる。否、私はこの一言が私の心に響た時、私は眞に自己がイエスによつて救はれたるよと感じたのである。爾來私はいつもこ

の言を想ひ出ては感謝を禁じ得ない者である。私は今年も亦、イエスのこの言を想ひ出て暮したいと思ふ。

十字架上の無慘なイエスの御姿は、たしかに彼の肉體の生命の終焉を語つて居るかの如くである。それは平常の御姿と變つた異常を呈して居るから、誰にでも然か察せられたかも知れぬ。併しながら「われ渇く」との言は、聖書に記されたところを見るにいかにも泰然自若として、その間に少しの無理もなく、極めて圓滿に、またよく調和のとれた、何どなく自然な、何らの動搖もない、全く平靜な言であつて、それは永遠の感じこそすれ微塵だも行詰りの感じは起らない。

この場合イエスの靈魂は、事實敵にも、苦痛にも死にも、此世界にも超越して居たかの如くに感じられる。言換れば、かゝる言が彼の最後であらうとは、蓋何人にも想像し難からう。

それはとにかく、私は敵に對して「われ渇く」といひ得るやうな、天國に屬する英雄的精神もて、今年もよくその境遇に處したいものである。また如何なる場合にも極めて自由なる――それの救はれたといふのだ――この言を發し得らるゝやうに――イエスのやうに――生活をしたいものである。かくて私は今年も亦救の經驗をさらに深く耕やしたいと願つて居る。

ねがはくはわが時のいかに短きかを思ひたまへ、
汝いたづらにすべての人の子をつくり給はんや。

―詩―八九―

大正十年の標語を若き姉妹方に

○ 齋藤勇

A perfect woman, nobly planned,
To warn, to comfort, and command;
And yet a Spirit-still, and bright
With something of angelic light.

— Wordsworth.

○ 三谷民子

此頃私は日本婦人が精身的にも肉體にも弱いことが氣に掛つて居ります。其れで私は左の句を今年の標語にいたしたいと存じます。

「まとひに入らぬやう目を醒しかつ祈れ」

馬可十四ノ三八

○ 星野愛子

われ新き誠をなんぢらに與ふ即ちなんぢら相愛すべしとの是なり。

なんぢら誰の罪を釋すとも其罪ゆるされ、誰の罪を定るとも其罪さだめらるべし。

キリスト

○ 川戸環

誠の心を以て神を畏れて從へ。

コロサイ書三ノ二二

○ 石原謙

云ふ迄もなく今は極まりなき動揺の世です。不安

と焦慮と時としては絶望とに我々は襲はれてゐます中にも青年女子の如くに烈しい動揺を感じつゝある者を、私は多く知りません。之に對して私はパウロと共に、常に主にありて喜び、人に對しては寛容に己れに就ては何事をも思ひ煩はず、ただ事毎に祈をなし願をなし感謝して求むる所を神に告ぐべきことを勸めざるを得ません。而して彼の云へる如く、主にありて堅く立つによりて期待され得ることであり、かくして眞なること、正しきこと、愛すべき事を努力する時に、人の思に過ぐる神の平安によりて我々の心と思とが凡てキリストに於て守られることを信じてゐます。（ピリピ書四ノ一九參照）

○　羽仁もと子

この頃私は「神は愛なり」といふことを特に皆様に考へて戴きたいと思つて居ります。

○　横澤つぎ

われらの神エホバの佳美を着、われらの手のわざをわれらの上に確からしめたまへ。

○　加藤高子

願はくば汝ら靈の予ふる諸の智慧と穎悟とを以て委く神の旨を知り、凡の事主を悦ばせんが爲その意に従ひて日を送り凡の善事によりて果を結び且神を知るによりて漸に徳を増し、又神の榮の權威に循ひて賜ふ諸の能力を得て強くなり、凡の事よろこびて忍び且耐へ又我らをして光にある聖徒の業の分を受るに堪ふる者とならしめ給ふ父の恩を感謝せんことを。

トラピスト修道院の晩鐘（中）

住谷悦

われは頌む　母なる聖マリア
やはらぎの心と　勤行のまことよ
われこれらを　祈り求めて與へられたり
いましはときはに、處女のゝましきほこりに生きませり
ほまれと、さかえと、淨らかとは、
かきはにいましのものなれ
ちいさきわれをいつくしみ給へ
ちいさきねがひと、いのりをきこしめし給へ。
（幼き日のマリアへの祈り）

「Lourdesの姫」を訪るるために修道院の裏手に廣がれる牧場を横切つて落葉松の密林を山へ辿る。牧場には修道者の永久の憩いの墓地があつた。白塗の十字架が幾個も立てられてあつて寒い北國の潮風にさらされ、そぼふる雨に打たれて殊に淋しげであるけれども、十字架の下に靜かにやすらひつゝ來るべき最後の審判の日の限りなき榮えを思はば何とはなしに平和な心持に浸される。この北の國に聖名を頌め讃へつゝ逝いた若き或は老いた修道士達の身の上を想像しつゝ、林の中にうね〳〵と跡づけられた一條の小徑を奥へ奥へと登つてゆくと草葉の繁みは次第に濃くなつて異樣な草の香がほんのりと漂ふてくる。落葉松の葉の繁みのために細道はほの暗く、木の枝に縋りつゝ登りゆく足もとも怪しく亂れる。獨逸の傳説にある「生命の水」の王子が人里離れた森林の奥にある魔法の城に閉ぢ込められた王姫を探しにゆく樣な神秘的な心持に滿されてしまふ。

向ふから年若い修道士が褐色の勞働服を纒ふて鋸を手にして降りて來るのに逢ふた。

「ルルドの洞窟はこの道から行かれますか」

私は小聲に尋ねた。綺麗なそして蒼白い顔をした修道者は無言のまゝ首肯いて遙か山の中腹を指し示して、鍔廣の麥藁帽の端で少しく顔を蔽いつゝ私の側を滑り拔けて急ぎ足に林の小徑を降つて行つた。立ち止つて暫く修道者の淋しげな後姿を見送つてから敎へられた山の中腹へ足を運んだ。さうすると林が盡きて巖石を切り開いた見晴らしの良い所へ出た。小山の丘續きと、牧場に寢そべつた幾群れかの牛の群れと、魔城の様に突き立つた修道院の赤煉瓦の建物と、バター工場の烟突の煙と、墓地の十字架と、其等の凡てを越えて青い津輕の海が廣い空と一つに溶け合ふてゐるのが眺められる。白い三角の帆は鏡の様な海の上に浮いてゐる。

高い巖を切り崩した正面の凹みに美しい Virgin Maria の等身像が安置されてある。下には鐵の棚が廻らされてあつて側らから奇蹟の泉が滾々と湧き上つてゐる。此の「ルルドの洞窟」を訪れる旅人は誰れでも必ず聽かされるのは一八五八年南フランスの Lourdes と云ふ所の Bernadettes Soubirous といふ十三才の少女にマリアが姿を現はしたと云ふ不思議な物語である。そしてそのルルドの岩窟より湧き出づる泉は奇蹟的の功能を有するのだと言ひ傳へられてゐる。初めて修道院長がこの山を切り開きつゝあつた時、過つて足を踏みはづしてこの斷崖を辷り落ちた。その時幸ひにも只一本の蔓に支へられて危き生命を救はれたと云ふのがこの所であるさうでその奇蹟と功徳を記念するために此處に南フランスのルルドのマリアに型取つた立像を安置したのだと云ふ

私は棚の前のベンチに腰を下ろしてその氣高い美しいマリアの像に長い間眺め入つた。淸楚な白い衣を着けて遙かかなたなる蒼空に憧憬れの眼を放つてゐるのは丁度、沒我靈交の悅樂に充ち溢れた神秘的な修道院の宗教そのものを象徴したのではないかと

思はれた。奥床しいマリアの姿、和平な圓滿なマリアの姿。世の凡ての人に失はれたる久遠の處女性の尊さと美しさとを眼のあたりに見るが如くに感ぜらるる。Raphael の The Madonna Della Sedia や、Rossetti の Ecce Ancilla Domini や Murillo の The Immaculate Conception 等に描かれてあるマリアの美しさに心醉ふた覺えのある私は、今此處に「ルルドの姫」の立像と思ひ合はせて深い瞑想に耽つた。先年修道院を訪れた私の親しい友人のTさんはこの像を見たときこう云つた。

「この世の太陽を見てから、まだ一度も母を見た事のない子供がなつかしい美しい母の面影を心に描きつつ或日偶然にもこの美しいマリアの像を見たら、彼が心に出來得る丈け美しく淨く描いてゐたその憧憬れをそれに見出し驚きと歡びの餘りもろ手をあげたまゝそこに目くらみ倒るゝに違いない」と。

「ルルドの姫」の頭を圓く繞る後光には JE SUIS L'IMMACULEE CONCEPTION (吾れは瀆れなき孕りなり)と記るされて金色に輝いてゐる。

眞に此處はウオルタア・ペエタアの詞の如く「慰安をも恐怖をも誘ふ所にはあらず。そは漠然たる沈思默想の境所」である。美しいマリアの前に額いて默想に耽るには、日の落ると共に殘陽を赤く照り返す修道院の鐘樓から高く低く餘韻豐かに「アヱ・マリア」の鐘の音の響き出す哀愁の夕べがふさはしい。

この神々しき美しきマリアの像は、浮世と關係を斷つた數十人の若き修道者達の唯一の誇りであり、又最愛の慈母であり、戀人であらう。且又其の前に敬虔に額き、吾れを忘れて祈りを捧げることが彼の人達の最大の慰安であり歡びであらねばならない。掟と云ふ冷い Anathema の鎖に堅く縛られて温い春の光に若草の萌え出づるのも顧ずして、形式的な服從を強いられた歐洲中世の修道院の生活では、マリアが著るしく淨化され、美化され、詩歌の間に歌ひ込まれたと云ふ。表面はあくまで宗教的であり靈的であり嚴格であり乍ら内面には人の世の歡樂を讃

へる情熱に燃えてゐたと云ふことを私等は歌に詩に繪畫にそれと察することが出來る。

Bavaria のある修道院の奥の經藏から探し出された當時の詩集, Carmina Burana の一篇には美と戀とが強く歌はれてあると云ふことは、春の若さに躍り狂ふ脈絡の血潮をば、不自然に强抑したために起る矛盾と衝突とに苦しんだ人達の眞なる情の發露であらう。

私は友人Tさんからこんな物語りを聞かされた。それはある古い大きい寺の若い僧が、たそがるゝ頃ほひになると、いつでもひそやかに、物に怖づる樣に人目を忍びつゝ本堂に安置してある美しい觀世音の立像に胸とどろかせつゝ口つけすると云ふ筋の話。

古來聖者と崇めらるゝ人達が修道院や奥山の洞窟の中に於て春の閑けさを囀づる小鳥の樣な晴れやかな咡きで「疾くこの寂寞たる住み家をすて、人の世の歡樂に歸らずや」と誘惑する美しき幻影に苦しんだと云ふ幾多の物語を思ひ起さぬ譯にはいかない。

古代の人々が女頭獅身の Sphinx や半神半人の Pan などに依つて矛盾した二つの心の苦しい爭鬪を象徴したことと想ひ合はせて、修道士達が胸奥に兆した二つの心の鬪爭とその矛盾の解決と調和に喘ぎつゝこの寂寞たる林の奥に來つて只獨りマリアの像の前に跪ぐ有樣を想ひ浮べてみた。丁度藝術家が美を慕ひ美に憧れて陶然として無我の聖境に遊ぶ樣に、修道者達はこの Virgin Maria の像の前に額づいて幽玄な神秘な世界に恍惚として醉ふのであらう。禁慾主義萬能の落莫たる中世紀の僧院生活を通じて一筋の銀線の如く走つてゐるのは、官能及想像の歡樂の追求と美の愛好と讃美とによる詩的な偶像崇拜である。基督教的理想の域を超脱した歌や物語りは修道者達のマリアの像の前に額づく靈交と悅樂の半面を飾る美しき彩りである。敬虔な修道院生活の半面にこうした異教的要素のあるのに對して私は極自然なゆき方だと思はずにはゐられない。

「あゝ修道院と美しいマリアとそして若き修道士達

よ。」私はこう胸に繰り返しつゝ此處を下つた。

ルルドの丘から眺むる北國の夕暮は亦一層旅人の思をそそる。赤色の建物は夕陽を受けて沈みゆく夕靄の中に際立つて照り輝きやがて光の薄れゆくとき野を傳ふて Ave Maria の鐘の音が響いてくる。旅にきく夕暮の鐘のなつかしくも嬉しく心にしみ渡るとき堪へ難き人戀しさを覺えて、赤き燈火と雜沓の巷にカッフエーの香を求むる心持もひとしほ切なるものがある。

夜の床の旅人の思ひ出。

まだ乳母に抱かれて遠い國の不思議な物語を聞きつゝ靜かに寢入る幼き頃ほひであつた。彼は村の子供達と遊ぶと行儀が惡るくなると云ふ理由で戸外の野の草の上に自由に戯れ廻ることを許されなかつたつき纏ふ乳母の目をかすめて門の外の世界を僅かに覗くことが稀れにあつても恐ろしい事をしたかの樣に思つてすぐ乳母の許に走せ歸るのであつた。或夜のこと子供はマリアの樣な美しい氣高い女神が白い山百合の花束を抱へて微笑みに溢れつゝその白百合の花を分ち與へて呉れる夢をみた。翌朝眼醒めた時子供は嬉しさに堪へかねて詳しく夢の女神の話を乳母に物語つた。すると今迄あれ程優しかつた乳母の眼は異樣に慄へてこれまでにない怖い顏になつた。

「坊ちやま。あなたのみた夢は怖ろしい夢です。さあ神樣にお祈しませう」と云つて乳母は眼を閉ぢ頭を垂れて長いこと祈を捧げた。何故あの優しい白百合の女神が怖しいのか少しも教へて呉れなかつた。

ただ「怖ろしい夢だ」とのみ繰り返すのであつた子供は次の夜も又次の夜も同じ樣な優しい女神を夢みた。然しもう乳母の怖い眼と厳格な言葉に畏れを抱いたため決して女神の話を聞かせなかつた。ひるはひねもす、夜はよもすがら子供は美しい女神の夢の跡を追ふて涙ぐましい幾日かをつゞけるのであつた。乳母は益々默り込んでゆく子供を室の片隅に呼んで「坊ちやまは又怖ろしい夢を見たのではないか」と追及したけれど子供は潤んだ眼をあげて乳母の顏

を見つめるのみで何も答へなかつた。子供は乳母に伴れられて教會に行く様になつた。そして美く浄られた祭壇の前で祈る言葉を教られて「さア お祈りなさい」と強ひられた。

主よわがくちびるをひらきたまへ
さらばわが口なんぢのほまれをほめたゝへん
主のみなをほめたたへよ
主のみなはほむべきかな

祈りは繰り返へされたけれども「時」と云ふ魔物に育くまれてゆく子供に春は目醒めて人知れず密かに抱く幻影に美しい心は次第に掻き亂れてしまふた乳母の祈りは夜となく晝となく續けられたけれど子供は怖い乳母の許をいよいよ遠のいて獨り夢みる日を求めてやまなかつた。

何かしらもの哀しい夕べは母の胸に顔を埋めて心ゆくまで泣きつくすことに依つて満ち足りた幼い子が、年月の經つにつれて母丈けではどうしても満たし得ぬ「憧憬れの世界」を覗こうと焦慮つて人知れず苦しむようになる。

この時若し「ものゝ解つたおば様」と云はるゝ様な人があつて、寛い理解と温い情愛とを以つて育んでいつたなら屹度若き男女は心も身もすんなりとのびてゆくであらう。

求めつゝも與へられず、愛さんとしても愛し得ざる哀しみと寂寞とを抱いた世の多くの若き男女が、祈つても祈つても猶満たし得ぬこゝろの空洞のやり所に窮して、如何に悶えつゝ dry なその日その日の生活を送つてゐることであらう。

「心の宿」を求め喘へぐその若き人々は窮するの餘り或者は山に野に僧院に逃がれ、或者は絃歌と紅燈の巷に儚くも満されぬこゝろの餘憤を漏さうとするその人達をほんとうに救ふものは決して權威を以て外から臨む冷たい掟ではない。温い涙を湛へて内より育くむ「ものゝ解つたおば様」の理解と情愛のこゝろである。掟を以て人の子を育てようとする者はその人の魂を spoil する。寛い理解と温き情愛とを以て神がこの世に Adam と Eva とを創造たまふた深い尊い意義を教へて呉れる「良きおば様」を持つ人々はまことに世にも幸多き人々である。(續く)

讀書紹介(三)

——必讀の書——

エム

必讀の書！　誰にとつて？　ときかれるならば私はすべての人に——階級、知識、年齡を問はず——と答へたい。殊に青年男女には、どうでもかうでも讀んで頂きたい。書名は「革命家の思出」。

以下の轉載は同和譯六百十八頁中の五頁にも足らぬものであるが、これ丈でも全體を押しはかるに充分であると思ふ。

「私が聖ペテルスブルグの生活の中に見た唯一の光明は當時男女の靑年の間に行はれてゐた運動であつた。………今はただ婦人が高等敎育をうける爲に公然行つた運動のことを話しておきたい。當時セント・ペテルスブルグは此運動の第一の中心であつたのだ。

「毎午後私の兄の若い細君は、その通つてゐた女子敎育學講習會から歸つて來ては、そこに溢流して居る活氣についての何かの新しい報道を齎した。女醫學校や女子大學を開かうといふ計畫があつたのだ。講習會の事から色々な學校や又はいろんな敎育法に就ての討論會が開かれて、幾百の婦人が熱心にそれに加つて繰返し繰返し其等の問題を論じ合つてゐた會員中の貧乏な姉妹に職業を與へる爲に、翻譯者協會や、出版者協會や、印刷人協會や、製本人協會などが設けられた。他日高等敎育を受ける仲間にはいりたいといふ希望から、何でもいゝから仕事にありついて生活していきたいといふ貧乏な會員が、首都に群がり集つた。斯くして此等の婦人團體には、

私が他の場所で見たのとは丸で反對に、活氣と元氣が滿ちてゐた。

「政府が婦人を現在の大學には入れないといふ決心を示して以來、彼女等は彼女等自身の大學を作る事に、その全力を盡して居たのだ。彼女等はまづ、女學校を卒業した娘等には大學の講義をきく豫備知識がない、と文部省でいはれた。「よろしうございます」と彼女等はそれに答へた。『それでは、大學へはいる豫備の中間の學校を開かして下さい。そして何なりともあなた方のお勝手な學科を示して下さい私達は政府の補助は御願ひしませぬ。ただ許可をさへ與へて下されば何でも致します。』勿論この許可は與へられなかつた。

「そこで彼女等は、セント・ペテルスブルグの到る所に、講習會や客間講義を開いた。多くの大學教授は此の新運動に同情して喜んでその講義を受持つたそして彼等は自分自身も隨分貧乏で居ながら、少しでも報酬の事などを話しすれば自分に對する侮辱として取る、と豫め發起人等に注意した位だつた。毎年の夏、大學教授の指導の下に、セント・ペテルスブルグの郊外に自然科學遠足會を催して婦人等がその會員の中心になつた。……………老博士グルウベルの解剖學研究室にはいる許しを得た。そして彼女等はその立派な成績によつて、この熱心な解剖學者を全くその味方にして了つた。………………

遂に彼女等は文部省のあらゆる反對があつたにも拘らず、教育學講習會といふ名儀で大學豫備學校をつくつた。實際將來の母たるものに教育方法の研究までも禁ずることがどうして出來やう。しかし植物學や數學や其他の諸學科がその講習會の課目の中にはいることゝなつて、講習會そのものが直ちに大學豫備門となつて了つた。

斯くして婦人等は一歩一歩その權利を擴張して行つた。そしてドイツの或大學で、或教授は少數の婦人にその講義を開放するといふ事が知れると、すぐにその教授の門を叩いて、其講堂に入れて貰つた。

彼女等はハイデルベルヒで法律や歴史を研究した。ベルリンでは數學を研究した。ツウリッヒでは百人余りの婦人が大學や百科工藝學校に通つた。そして彼女等はそれらの大學で、醫學博士よりももつと價値のある或物を得た。即ち最も學識の深い教授等の尊敬を得て、その教授等は屢々その事を公言した。私は一八七二年にツウリッヒへ行つて、ある學生と知り合ひになつて驚いた事がある。百科工藝學校に通つて居た極く若い婦人等が、長年の數學の素養でもあるかのやうに、造作もなく微分法を使つて數學の複雑な問題を解いてゐた。ベルリン大學のワイエルストラウス教授の下に數學を研究して居たロシア婦人の一人ソフイア・コワレフスキイは、非常な評判の數學者となつて、ストックホルム大學の教授に聘せられた。これは男子の大學で教授となつた十九世紀に於る最初の婦人であつた。しかも彼女はまだ極く若くて、スエデンでは誰でも彼女の事をどうしてもソニア（その幼名）といはなければ呼べなかつた程であつた。

「……………又カトコフが此運動の全體に對して、其毒々しい新聞の殆毎號をあげて卑劣な讒訴と罵倒とを傾けたのにも拘らず、彼女等はこの政府の面のあたりに、いくつかの教育機關を設ける事に成功したのであつた。彼女等の幾人かゞ外國で醫學博士の學位を得た時、彼等は政府に迫つて一八七二年に彼女等自身の私立醫科大學を開いた。

「これは實に驚くべき成功の、且つ極めて教へる所の多い大運動であつた。そして彼女等がこの成功をかち得たのは、何よりも先づ、有らゆる職業に於る婦人の群の、限りない獻身に基づくものであつた。彼等は既にクリミア戰爭の際には看護婦として働いた。後には學校の設立者として働いた。農村の最も獻身的な教師として働いた。農民の間の教育ある産婆として、醫者の助手として働いた。……………要するに彼等は社會的のどんな低い地位でも構はず

又其がどんな艱難に陥れるものでも構はずに、唯自分達がどうにかして民衆に役立つ事が出來れば、どんな地位にでも就いた。而もそれは彼等の中の少數ではない。幾百人、幾千人であつたのだ。そして彼女等の權利を言葉通りの意味で獲得したのであつた。

「この運動のもう一つの特徴は、そこに姉と妹との二つの世代の裂け目が無かつた事だ。最初から此運動の指導者であつた人々は、若い女達が年とつた女達よりもその理想に於て遙かに進んでゐたのにも拘らず、遂にこの若い女達と自分等とを結びつける緣を切つたことがなかつた。

「…………

「彼女等がどうして此賢明なそして立派な結果を得られる態度をとることが出來たかといふ本當の秘決は、此運動の中心であつた女達の誰れ一人として自分等も社會上及國家上の特權的地位に與からうといふ唯のフエミニストでなかつたことだ。……此老首領であつたスタツフ嬢が一八六二年に熱心に日曜學校運動を興して、……と戰つたその有樣を私は今思ひ出す。……彼女等の民衆に對する深い同情、及び彼女等の講習會に横溢してゐた社會的精神を思ひ出す。彼女等が——首領も、若い女達も——求め戰つた權利は、ただ高等教育を受ける個人的權利だけではなかつたのだ。それは更に以上に、遙に以上に、民衆の間の有益な勞働者となる權利であつたのだ。之が彼女等があれ程迄に成功した理由なのだ」

「ツウリッヒの大學教授等は男子の學生の模範として、大學での女子の進歩を稱揚して止まなかつた」

● ● ● ●

私はこの書をもつと早く讀まなかつたことを後悔してゐる一人である。

（日本橋區本町四丁目　春陽堂發行。價三圓卅錢）

誌友の頁

投書を歓迎致します
締切毎月十五日

雑感

あざみ

○

他人から好意を受け得ないことを苦にやむべきではない。自分がすべての人に親切と眞心とを有ち得ない事こそ苦しむべきであり、悲しむべく恥ずべきことである。

○

「仕方がない不平を云はずに歩かう。之は生れない前から定められた私の道なのだから」

本當の生き方は之か？　私はかう叫び度い。

「之こそ私に與へられた道だ、喜んで感謝して全力を以て進まう。人からはどう見えるか知らない。けれど之が、此現在が私の眞剣に歩まなければならない一筋道なのだ。Aの幸福もBの成功も　私の此現在を眞剣に最善に生かして行く喜びに優るものではない。私といふ人間が世に二人とないと同様に、私の境遇も他人には與へられて居ない。之を所有する特權は私一人のものであり、之にごまかしなく所して行く責任も私だけのものなのだ。

「我之が爲に來れり」そうだ、私の造られたのは此爲なのである。此與へられた場所を最もよく充して行くこと、神をも人をも自分をもごまかさず正直に生きて行くこと、此事だけでも大した事業ではないか。

○

雑踏の中を一人の囚人が引かれて行く。彼の周圍を取まく男や女の群衆、馬か牛かを追つて行くやうな平氣な顔の警官。

囚人は編笠さへもかぶつて居ない。大地を見つめた彼の目はくらんで時々彼をよろめかした。

彼の罪が何であつたにせよ、之は余りむごたらしい罰し方ではないか。刑罰の意味は罪を衆人に暴露

するにあるのだらうか。彼の心が復讐の焔に燃えて居なければ幸である。

人が人を裁く、何といふ怖ろしいことだ。時には生命をさへ斷切ることがある。ゾツトせずには居られない。人の下す判決は果して何程迄正しいものであらう？

○

私は自分を省みた。此心は果して人を裁いた事はなかつたか。言葉や行爲や、時には最もあてにならない外見から人を裁きした事はなかつたであらうか例へそれは唯心の中だけでなされた事にしろ。

「神よ、赦し給へ、人を裁く此心こそ汝の前に裁きせらるべきものであります。我が中の裁き易い心をかへて赦す心を與へ給へ！」

○

他人を推しのけても自分を出そうとする。之程醜い事はない。他人の言葉を遮つても我意を云ひ張らうとする、これもかなりに見苦しい。殊にそれが婦人である場合には。私達の生活がいつもしづかに自分に歸つた時の狀態の連續でありたい。

紐育の中西さんから

前略、誠に規則正しい生活をして居りますので體は此上なく健康でございます。先日身體檢査の折滿點を戴きました。此處の寄宿に今ミスカフマンが來ておいでになります。ミスチエンバースも居られます。又河井先生、渡邊さん、ミスオルチンもゐらつしやいますので日本女子青年會はかなり有力です。其上英學塾の卒業生が當市に六人居られます。米國人の學生より私の方が紐育市内に友達が多いといふ樣なわけでございます。日本では大概どなたより丈高の私がこゝでは中以下の丈でございます。此學校（幹事養成學校）にはロシア人、ボルゲリア人ノルウエー人、支那人、カナダ人、日本人といふ樣に世界各國から集つて居ります。支那と日本、米國と日本、ロシアと日本皆仲よしでございます。　後略。

東京女子青年會

一現在會員總數　九二三
一同　職員總數　三〇（内外人共）
一大正九年總收入　一萬、四四四八、六三
一同　總支出　一萬、三〇八三、四八（自一月至十一月）

事業概况

(一)家庭部。坂本花代姉擔當。家族親睦會料理實習會等あり、從來得がたき方面の方々に接する機を與へられしのみならず有力なる會友を得。
(二)商工部。鈴木トミエ姉擔當。會務にある人々の間にクヌブ創設せられ益々發展、夏期休養所又好結果なり。
(三)學生部。岡崎小文姉擔當。聖書ノ組十八、日曜諸集會及學生親睦會等あり、官立女學校生徒間にクラブ事業開始せらる。
(四)教育部。酒井愛子姉擔當。英語、商業英語、速記、タイプライター、體操、會話專修科等あり。
(六)會員及會計事務。羽太鈴江姉擔當。三浦節子姉補助として活躍す。新に荻村操姉を得、月報發行、會員親睦發展の爲に計畫す。
(六)兩寄宿舍。常に滿員、旅行者の友、王子巡回産婆は大に活動す。
當會館は同窓會、クラブ會、音樂會、及委員會等に貸與せられたり。最近簡易食堂を開始し職員は廢辨を廢止したり。尙今回新に吉澤夏子姉を御母様として與へられ會館取締り及僕婢教養の任に當らるゝ事となりたり。
大正十年度には一層協力して質に於ても量に於ても神の聖旨にかなふ活動をなし度希望切なり。

（加藤）

横濱女子青年會

一現在會員總數　九一〇
一同　職員總數　八
一大正九年度總收入　二萬、〇五九九圓、四五

一同　總支出　一萬九〇一八圓二七
右收入支出中には本會外人寄附金の收支をも含む。

□第四回總會、十一月廿四日午後五時半より開く。出席者百三十名、約三時間に渡りて本會の事業を委しく說明し將來の抱負を述べたり。此總會は本會創立以來見ざりし程に出席者の熱心表はれし會なりし由古き委員諸姉は異口同音に申し居られたり。

□クリスマス　來る十二月十九日午後三時より開會クリスマス禮拜をなしミスアレンの御話あり。廿二日午後七時より祝會を催し「姉妹の愛」といふパジエンドある筈。

□ルキズクラブ。十二月十六日午後一時より當市訓盲院學生の爲クリスマス祝賀會を開く。晝食を共にし、夕刻迄クリスマスの話、歌其他種々の音樂を聞かせたり。同學院の學生は當日朝五時頃より起出でゝ此夜を樂しみ居られし由。「今日は天國へ行つたやうでした」と感謝に充ちて歸途につかれたり。

□教育部、移民部、奧樣クラブ。いづれも本年度の成績を感謝しつゝ充實を期して新しき年を迎ふる準備中なり。（横澤　つぎ）

大阪女子青年會

一現在會員總數　三四二
一同　職員　五（外人二名）
總收入（大正九年一月より同　十一月まで）　二七五七圓三四
總支出　三一三五、〇三

事業概報（大正九年一月より十二月まで）

一、三月　レーンボークラブ指導者會初めて開かる。
一、六月　パジエントを公會堂に催す。
一、七月　三ツの新しきクラブ生る。
一、十月　濱寺石神夫人宅にて小さき修養會を開く。
一、十一月　講演會、幻燈會、祈禱會等を催す。此等の會により與へられし獻金廿五圓は大阪朝日新報を經て支那飢饉の爲に寄附す。
一、同　幹部委員の研究會を開き東京より加藤高子氏ミス・スカット御來阪下さる。

一、十二月　クリスマス禮拜、同祝賀會、同パテイー等を開く。

神戸女子青年會

一現在會員總數　五一二

一同　職員　五（外人二名）

教育部　イ英語、裁縫、料理、聖書研究（家庭婦人の爲）

ロ西洋ノ風習、英語、衛生、育兒家政（海外渡航者の爲）

ハ英語夜學校、音樂、靈的講話、聖書研究（有職婦人の爲）

ニ讃美禮拜、日曜日午後（一般婦人の爲）

クラブ　イ金曜クラブ、育兒衛生、家庭に就ての講演をなす（家庭婦人の爲）

ロ木犀クラブ　一ケ月一回集會を開き親睦を計る（有職婦人の爲）

ハプリンセスクラブ（夜學校生徒の爲）

ニ年長者クラブ

ホナイチンゲールクラブ（看護婦の爲）

ヘレインボークラブ（少女の爲）

京都女子青年會

□六月創立準備委員をあげ會長海老名みや子氏を初め廿名の委員方熱心に御盡力下され居り目下會員募集に特別の御援助を戴き豫定の如く三百人の會員を近日中に得る筈なり。

□十一月五日には會員募集のためパジエントと講演會とを青年會館にて開き約六百人の會衆に當會を紹介せり。

□十二月二十日には新會員を招待し歡迎親睦會と同時にクリスマス祝會を催す豫定なり。當日は中路ちか子氏に御話を願ひ、余興として小さきクリスマスパジエントを演ずる筈なり。

女子青年會本部

一大正九年總收入　九四一九、八七五圓

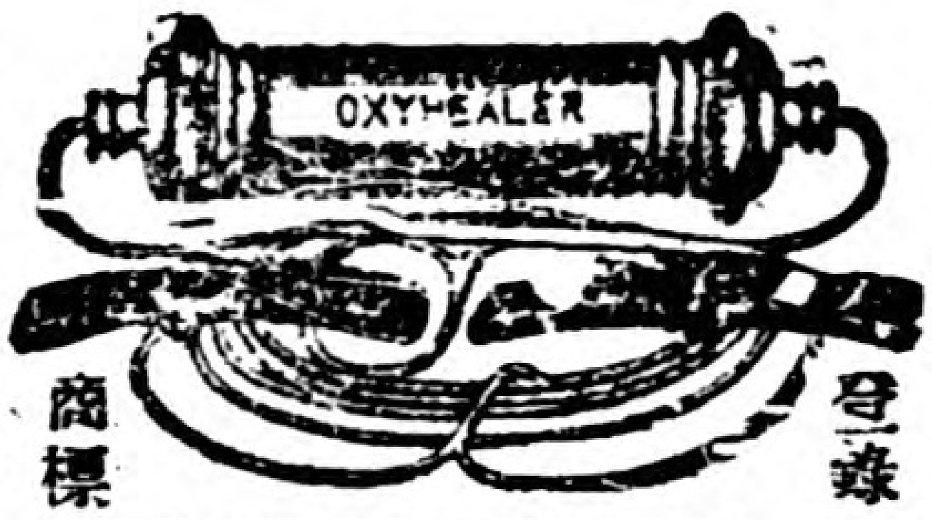
一同　總支出　八四〇九、三九〇圓

一會員總數　二七〇

◆其實驗說明書の發行十三版を重ね◆

本器は會主前島震太郎の創製にして江湖に提供して以來七箇年

酸素療器



オキシヘーラー

▽邦文 支那文 治病實驗例附說明書贈呈△

▼オキシヘーラーの効力顯著なる事は使用僅か五分間にして三乃至五ミリの血壓を亢め一時間を繼續せば實に十乃至三十ミリの活力を増進す試に血壓計、脈波計を以て驗せば其調節の狀を明にし各自は脈搏呼吸、體溫の整調に依て自覺せらる

▼靈妙なる磁氣應用の本器は斯して血液中の酸素吸引力を増大し健康の元素を補ふが故に難治の疾病を根治するに空前の偉力を有す論より證據使用者は忽ち脈搏强實となり全身の溫暖、呼吸の深長を感じ次で熟睡、解熱、鎭痛、食慾の亢進、兩便の快通等生理的本能を回復するの神速なるは實に天下の奇蹟なり

特色（使用法簡易効力永遠不滅にして電池の如く消耗するものにあらざれば器械購入以外永遠に何等費用を要せず

■正價金參拾五圓■

送料 內地金參拾六錢 支・朝・臺・樺金六拾五錢

愛用者實に數萬を算して信用愈々確立決して他の模倣を許さず

東京市牛込區神樂町一丁目一番地

◇オキシヘーラー獎勵會◇

電話番町局長三〇七・四六八九・振替東京二七七一二

These meetings and the special choir practice preceding them enlisted the interest of class pupils in the religious life of the Association, and prepared them for a year of steady religious growth.

Immediately following the special religious meetings, preparations were begun for the finance campaign, which was to be the first short term finance campaign ever held in an Association in Japan. Miss Scott gave her time in both October and November visits to preparation for it and the week of November 20th to 28th was set apart for it. Ten teams were organized with ten women in each, approximately, and plans were laid on the usual lines, with daily report luncheons. The results are an interesting study. The campaign is not finished. Only about forty women were at work during the week, the others being prevented by illness, and other things. Splendid spirit was shown by Board members and all workers, and to date the largest single pledge has been made by the combined business girls clubs, of Yen eight hundred for the year. Board members approve of the thought expressed by so many members during the finance campaign, that the effort to raise funds for land and building should not be delayed. Spiritual gains during the campaign were marked,—the Association being adopted as another child in the family in the thought of Board women and others—and a permanent prayer meeting voiced at its first spontaneous session the prayer that our work should never be "for the Association" as an end in itself, but always have as its motive service for the people through the Association. Governor Ariyoshi came to one of the luncheons and, hearing of the Land and Building plans, made them his text, saying "It seems a miracle to think of such great sums eing raised by women. But I believe in miracles! If you set yourselves to it, never give up nor change your plans till you have finished. I believe Providence is working with you!"

The third special eff rt is the pageant, to be held on the 18th.

The Association membership is now 512, and about 1000 people visit the Association building each week.

disposed to be of material help to the Association, though the decision is not yet reached.

A new foreign resident in the community, Mrs. J. T. Myers, opened her home Nov. 20, and a number of Association members from that neighborhood came to welcome her and to hear of the Association work though Tsuchiya San and Mrs. Yoshizumi of the Board of Directors. The Osaka secretaries and several members gave themselves an educational treat recently in visiting the annual exhibition of paintings at Kyoto.

The nightschool has had to lose two of its teachers the past month and was for a time in straits for suitable successors. Two good helpers were found at last, business girls of good education who are willing to give their time to this twice-a-week service. One of them is wellfitted to give some help in leading chorus singing besides her English teaching. A class in Sociology has recently begun with an enrollment of 11 members, taught by Mr. Shimamura. New members are coming into the five Bible classes already started and another class will probably begin soon after New Year's. A recent Sunday meeting of particular interest was addressed by Mr. Kato, an Osaka newspaper man, who spoke on Palestine, where he has travelled. His story of Bible lands as seen by a Christian tourist, made a marked impression on his hearers.

The Osaka Association had several guests in November, one of them in particular declaring this city especially interesting and recommending that visitors to Japan be advised te spend more time here,

Christmas plans are as follows:

Dec. 22.—Teachers' Christmas Party. To this are invited also those who have helped at Sunday meetings and some other occasions, making a list of 50 names.

Dec. 24.—Members' Christmas Party. Miss Edgar's play, "The Christmas Star" and tableaux given by members.

Dec. 25.—Christmas Party of the Kindergarten on the Association grounds, held in our house.

Dec. 26.—Christmas Sunday service of worship.

To a number of our new girls this will be the first Christian observance of Christmas and we want it to mean the utmost to each one. Miss Esther Steinmetz has been secured to drill the giris in Christmas music and it is hoped that her instruction in singing may continue after the holidays.

KOBE

Three "campaigns" have filled to overflowing the last two months, and three new secretaries have come in the nick of time into the Assaciation. The latter are, Miss Madge Temperance Sills, a 1920 college graduate and a delegate to the Sunday School Convention whose W. C. T. U. mother has endowed her with creative ability for social service as well as with her middle name—Miss Ando and Miss Watanabe—all three of whom came into the Association because of a real love of it—along about the first of November.

Preceded by earnest prayer meetings in which pastors wives and other women from all the churches united, November 14th and 15th women's union evangelistie meetings were held, addressed by Miss Nishino.

disapproval of the activities of the club, but the desire to have the evening's entertainment repeated often.

December 13th found the Domestic Science kitchen crowded to its capacity for the Cooking Demonstration given by that department. Miss Sakumoto is now busy with plans for a Christmas party to be given on Saturday evening, December 18th at which mothers and fathers and young men and maidens will gather in for a real family party with supper together, and music and games afterward. The real event of the evening will not be the dinner, but the group singing of Christmas hymns, in which the foreign and Japanese guests will join.

Tokyo is combining its Christmas religious service and its regular Christmas program and party in one this year. The service will be held on December 21st and will open with an address on Christmas, after which Miss Edgar's specially prepared Christmas play, "The Spirit of the Christmas Star" will be given by girls drawn from all departments of the Association. Following the play will come the social hour and the receiving of contributions for the China famine. The Tokyo Association is omitting refreshments from its Christmas parties this year, and also all individual and group giving, that concentration of effort may be placed on the needs of its neighbor, China; its Christmas contribution for the famine fund will be sent directly to the Peking Young Women's Christian Association for distribution.

Tokyo staff, Board members, and volunteer workers gathered for their annual dinner together on Tuesday the 14th at which time they listened to reports on the work of the fall and to plans for 1921. Perhaps the chief aim of the Association for the new year is best expressed in the real and deep desire on the part of the staff to keep warm and vital the personal work of the Association as it grows in organization and in complexity of work. Special plans are being made to have the Kanda building not only a busy place of many and varied educational and club activities, but in reality also a "House of Friendliness" to the women and girls of Tokyo.

OSAKA

Osaka had a long-cherished plan fulfilled in the all-day Board Members' Institute held during the Week of Prayer, Nov. 18, led by Miss Scott and Kato San from Tokyo. It was a quiet time of thoughtful and animated discussion which deepened understanding of Association problems and principles and gave new fellowship and courage for advance work. Mrs. Haseba, president of the Kobe Association, came for the afternoon session, the Kyoto president being unable to come. It is hoped to have similar institutes in Kobe and Kyoto preparatory to a tri-city Board Members' Institute in the spring when Kawai San is again here for leadership.

The southern Association secretaries had their monthly meeting again at Osaka, Dec. 4, with every member present. The discussion on Association membership led by Tsuchiya San, general secretary in Osaka, got down to first principles in a practical way and the discussion will be continued at later meetings. One member who had some doubts the previous month about the value of these meetings declared that we didn't have time enough for this important subject!

Land for the new dormitory continues to be an exciting prospect, as various possibilities loom up on the horizon, and the city government seems

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KWAI)

Volume 18 December 1920 Number 8

NATIONAL

Miss Kawai is expected home the latter part of January after a long absence, during which she attended the World's Conference at Champery, the National Convention at Cleveland, Ohio and has done much traveling in the interest of the Association.

The National Committee held a meeting on December 11th and will have its next meeting January 15th. So many items of importance have been before the Committee for consideration that it has been found necessary to hold monthly meetings. At the last meeting the arrival of a new secretary was announced. Mrs. Edith Jordan of Seattle, Washington, has come to Japan to take charge of the Foreign Residence in Yokohama

Secretarial staff meeting for the Osaka, Kobe and Kyoto Associations was held in Osaka on December 4th, with a very interesting discussion on "Membership." The Yokohama and Tokyo staff meeting was held in Tokyo on December 14th, and the discussion was on "Secretarial Standards." Both groups have decided to hold these staff meetings monthly.

TOKYO

The Tokyo staff is rejoicing over the coming of its latest staff member in the person of Mrs. Yoshizawa, our House Secretary. Mrs. Yoshizawa will reside in the Building and will have not only the oversight of the Building in respect of housekeeping duties, but she will also meet the need, long felt, of some one at leisure to attend to the hospitalities of the Association. Tokyo Association welcomes its new 'House Mother' warmly and invites all friends of the Association to come in and become acquinted with her.

November 27th witnessed a unique party in the Kanda Building when the Tesudo Club girls from the Imperial Railway offices held a club meeting and dinner to which they invited the men under whom they work in the offices. The men came to see what the girls were doing in the club and gathered in an interested group at the rear of the room during the regular club meeting, but their interest increased and intensified as they went down to the gymnasium later to enjoy the excellent program perpared for them by the girls and to join in the games conducted by Miss Ferris, in which they all heartily joined. After the program and games came supper, with songs and speeches, and the guests departed after having expressed not only the hear-

一職員總數　五名

萬國祈禱週負擔金報告

一弘前女學校青年會　一三、五〇
一東洋英和青年會　五、九〇
一金城女學校青年會　二〇、一〇
一靜岡英和青年會　七、七〇
一女子英學塾青年會　五、〇〇
一プール女學校青年會一四 二〇
一女子學院青年會　四、六〇
一フェリス女學校青年會五、七〇
一山梨英和青年會　九、四〇
一捜眞女學校青年會　四、〇〇
一東京女子大學青年會　六、〇〇
一青山女學院青年會　四、〇〇
一神戸女學院青年會　一〇、五〇
一共立女學校青年會　三、〇〇
一同志社青年會　一九 〇〇
一横濱英和青年會　一三、二〇
一遺愛女學校青年會　一九、五〇
一廣島英和青年會　六、〇〇
一梅光女學院青年會　五、〇〇
一宮城女學校青年會　一七 五〇
一大阪女子青年會　一二、六五
一神戸女子青年會　四〇、〇〇
一京都女子青年會　一〇、〇〇
一東京女子青年會　四〇、〇〇
一横濱女子青年會　八、〇〇
折居きん　、五〇　西田のり　、一〇　増本操　、一二
本田千代　、一〇　瀬城章　、三〇　相澤うめの　、一〇

合計　二百六十九圓五十七錢也

一口に日本女子青年會と申ますものゝ、それは市青年會、學生青年會及本部との三つから成立つて居ります。市青年會は目下東京、横濱、大阪、神戸、京都の五都市に設置されて居ります。學生青年會は各地ミッションスクール及女子英學塾等廿九ケ所の學校内に組織せられて居ります。而して之等の市及學生青年會は本部を通してロンドンの萬國女子青年會本部との連絡を保つて居るのであります。

それ故同じ東京市内に所在して居りましても本部と東京市青年會とは場所も事務の取扱も全々別であります。本部の會員は多く、特に本部の仕事に對して理解と同情とを有さるゝ篤志家及び未市青年會の設置なき都市在住の方々でありまして、普通、(會費一年一圓五十錢)維持(同三圓)特別(同拾圓)の三種に分てあります。雜誌は維持、特別の兩會員にのみ送呈する事になつて居ります。本部の仕事は主として市及學生青年會訪問、雜誌編輯、其他の事務でありますから錦町の事務所は全く此等の事の爲に用ゐられて居ります

編輯を終りて

□あけましてお目出度うございます。と記しながら私は何故そういはなければならないのかと考へました。儲に新年を祝ふにはいろ〳〵の理由があるに相違ございません。けれど私の頭に浮んだ一つのわけは「まあよく一年を過して來た。あの山、あの谷、とても自分の力では越せないやうな難關。病も悲痛も今となつては私に何かを齎らさないものはない。考へて見れば一切が祝福であつた。」この樣な感謝から出た歡喜で新年の門出を祝さずには居られない氣持でございます。

□殊に此小雜誌の爲、陰に陽に御援助をお與へ下さいました方々の御厚志を考へますと、私はおかけ樣でといふ言葉を心底から云はせて戴き度くなります。それらの方々の一人一人を今心の中に思ひ返して私はしづかに祝福を祈つて居ります。

「それは決して形式の言葉で形式の感謝をなし得べきものではない。私はそれを秘密の負債として秘めて居る。負債！　それを決して酬ゆる事が出來ないと考へては悦ぶのである。」

ワイルドの言葉として「ピアドロヽサ」に引用されてありました此句を借用して年頭の御挨拶に代へます。

河井先生は一月八日桑港を御立ちになります。　H・A

摘要

△本誌代金は總て前金にて御拂込被下度、前金切れの捺印有之節は直に御拂込被下度候

△御送金は振替にて拂込まるゝ方便利にて且間違も無之候、但手數料壹錢を御加へ下され度候。

△振替、東京、貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵稅共

	一部	一年前金
内地	金十五錢	壹圓五十錢
海外	金拾七錢	金壹圓八拾錢

廣告料

一回掲載		
一頁　金五拾錢	半頁　九圓	年極又は回數により割引有
四分一頁　金五圓	全頁　金拾五圓	

大正九年十二月廿八日印刷納本
大正十年一月一日發行

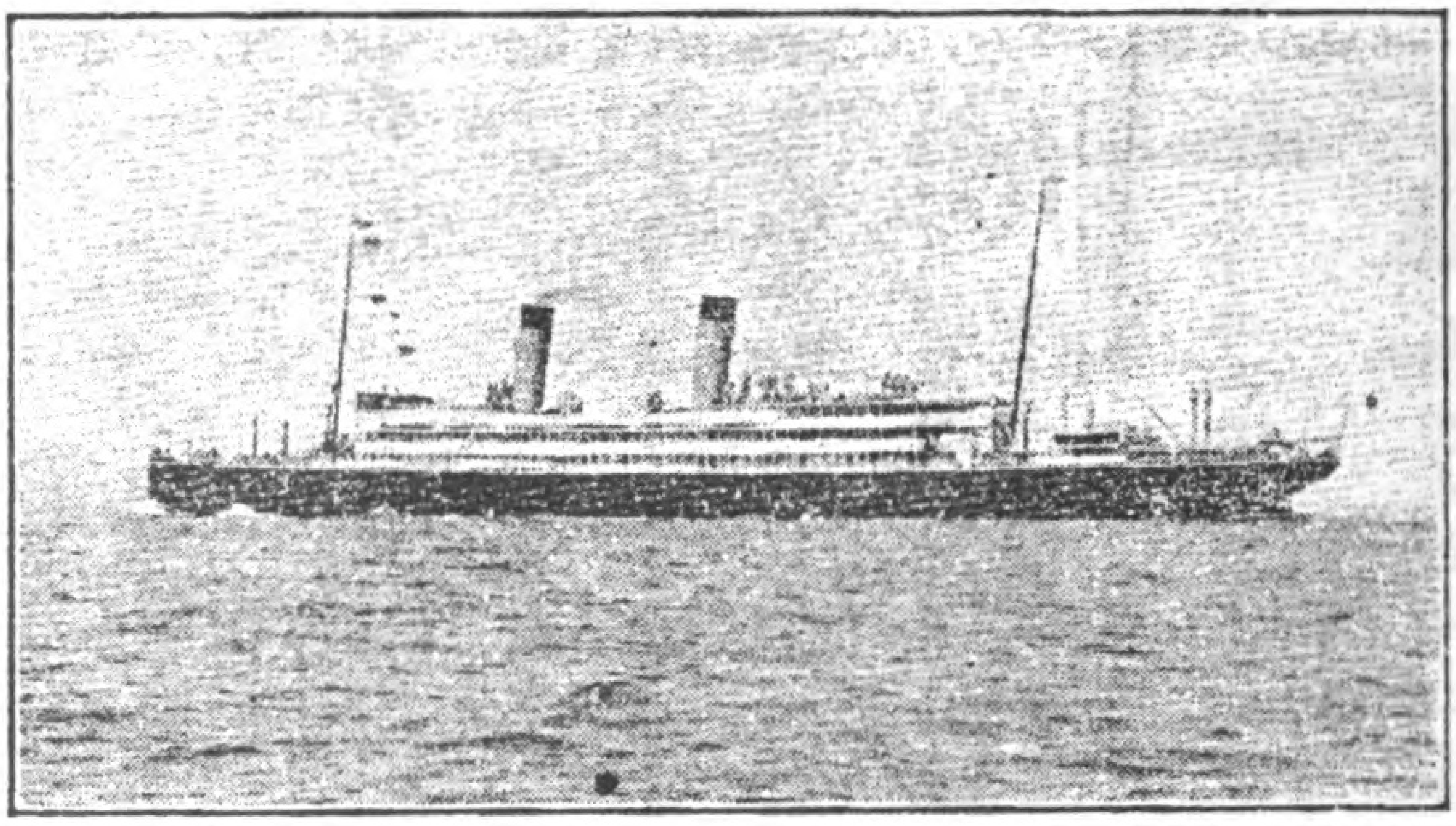
發行所　神田區錦町一丁目十六番地　日本基督教女子青年會　電話神田三六五二　振替東京二三七二三番

發行兼編輯人　河井道子　神田區錦町一丁目十六番地

印刷人　前川吉次郎　芝區愛宕町和泉町七番地

印刷所　三成舍　右同

東洋汽船株式會社



本社 東京市麹町區永樂町一丁目一番地（電話丸ノ内一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三番）

營業所 横濱市山下町五番（電話本局四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三、四四〇四番）

出張所（神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チャイナ、インシュランス、ビルヂング。マニラ、チャコビルヂング。桑港、マーケット街六二五、マーチャンツ、ナショナル、バンク、ビルデング。紐育、ブロードウエイ、一六五。ホノルル、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。）

北米航路（桑港、布哇ホノルル、横濱、神戸、長崎、上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋ターピン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
波斯丸	同	同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
静洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

女子青年界第拾八巻第一號（毎月一回一日發行）
大正九年十二月廿六日印刷納本 大正十年一月一日發行 明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

百科全書を兼ねた（大正十年）

ライオン當用日記

（四六判總クロース体裁最も優美
定價金一圓二十錢也
送料地方十錢市内六錢）

ライオン歯磨本舗廣告部
東京本所區外手町
振替口座東京四八三五五番

謹賀新年

大正十年一月一日

ライオン歯磨本舗
株式會社 小林商店
東京、大阪、名古屋



ライオン歯磨